

臨床検査部

部長 近澤香奈

● 概 括

2025 年は技師 52 名、パート 2 名で運営し、「医療の質」と「効率化」の両立を掲げ、タスクシェアと多職種連携を強力に推進した。4 月には新人を生理検査部門へ配置し、診療支援体制の早期安定化を図った。とりわけ注力したのは「ハイブリッドな人員配置」によるマルチスキル化である。専門特化と汎用性の両立により、欠員時にも即応可能な強固な組織基盤を整備し、人材資源の有効活用を通じて安定した医療提供を継続した 1 年であった。

● 人 事

病院検査部の新規採用は 3 名、退職は 2 名となった。

● 2025 年実績（件数）

前年の実績と比較すると、病理検査 1.9%、ブランチラボ 0.3%と増加、生理検査 1.0%、細菌検査 2.5%、輸血検査で 6.5%の減少となった。

● 生理検査（表 1）

【1】業務基盤の最適化とデジタル化の推進

- ・ペーパーレス運用の導入（4 月）
心電図、脳波、脈波などにおけるペーパーレス化を実施。
業務効率化と情報管理の安定化とともに、年間約 150 万円のコスト低減を実現。
- ・生理検査システムの刷新（7 月）
「Hi-MEDiON Plus」および「MBF-1000」へ更新。
データの一元管理体制を確立し、診療支援を強化。

【2】循環器領域の高度化と専門性の深化

- ・実績推移と専門資格の取得
経胸壁心エコー13,790 件、経食道心エコー450 件と、前年実績を着実に維持。
GLS 検査 341 件（前年比 24.0%増）、心肺運動負荷試験 295 件（前年比 37.9%増）が伸長。
新たに認定心電検査技師・超音波検査士（循環器）各 1 名が資格を取得。
- ・不整脈検査による診断精度向上（6 月）
長時間心電図検査導入によるアブレーション前後評価の精度向上。
- ・構造的な疾患（SHD）治療への対応拡充（10 月）
経皮的な心房中隔欠損閉鎖術における術中エコー操作、ポリグラフ解析による SHD 治療体制の充実を実現。

【3】診療科ニーズへの即応と検査体制の強化

- ・乳腺外科開設後、乳腺エコー検査が 529 件（前年比 65.3%増）と急増。
専門資格の取得を推奨し、精度の高い診療支援を目指す。
- ・術中脊髄モニタリングの需要拡大
脊椎・脊髄手術の増加により、モニタリング件数は 150 件（前年比 108.3%）と倍増。
急増する診療需要に対し、安定した検査体制を維持。

● 輸血検査（表 2）

レベル I 超緊急輸血症例は 41 例、大量輸血症例は 41 例となった。赤血球製剤使用量は 7,504 単位（前年比 8.5%減）で、循環器内科の使用量が最も多く、次いで消化器内科が多かった。また、濃厚血小板使用量は 5,930 単位（前年比 10.0%増）で、血液内科の使用量が最も多かった。

輸血管理料 I・輸血適正使用加算に係る FFP/RBC は 0.30、A1b/RBC は 0.36、全輸血用血液製剤の

廃棄率は0.3%（前年度0.3%）となった。

輸血療法の安全性向上と情報提供の充実を目的に、2月に「自己血輸血に関する説明書・同意書」を改定した。目的や留意点を丁寧に説明し、患者さんが納得して治療を選択できる体制を構築した。

10月に血液型確定プロセスを見直し、「2回以上の検査実施」が明確に確認できる運用へ刷新した。確認フローの強化により、検体取り違い防止と安全管理を徹底した。今後も質の高い輸血管理体制を推進する。

●細菌検査（表3）

2025年の血液培養検査は9,502件（前年比3.1%増）と高水準にあり、重症感染症への迅速な対応が不可欠になっている。これに対し、2月に迅速遺伝子検査装置「FilmArray」を導入した。複数の病原体・耐性遺伝子の同時検出が可能となり、血流感染症などに対する迅速診断体制が大幅に充実し、抗菌薬適正使用への貢献が期待される。

一方、AST（抗菌薬適正使用支援チーム）では、薬剤耐性（AMR）対策の強化を目的に、継続的な教育・啓発活動を展開した。昨年度の「基礎編」に続く発展的プログラムとして、院内外の医療従事者を対象とした研究会を開催した。本研修ではグラム染色実習を担当し、実践的な微生物診断能力の向上と地域全体の診断力強化を支援した。

2026年は、県内主要病院の菌株回収と耐性遺伝子解析を実施し、地域における耐性菌の動向把握に寄与する計画である。

●病理検査（表4）

病理専門医5名（常勤1名、高知大学医学部附属病院からの非常勤4名）および細胞検査士5名（常勤4名、パート1名）の体制で運営した。

病理組織診断は4,686件（前年比3.9%増）、迅速病理組織診断は143件（前年比10.9%増）と着実に実績を伸ばした。細胞診断は1,216件、うち迅速細胞診（ROSE）136件を実施した。内視鏡分野での高度な運用は外部評価も高く、他施設への展開を通じて地域の診断向上を広く支えた。病理解剖は8症例（前年比33.3%減）を施行し、所見整理やCPC（臨床病理検討会）を通じて、研修医教育に貢献した。

また2024年11月に免疫組織化学染色装置「VENTANA」を導入し、2025年にはHER2 224件（乳癌・胃癌・大腸癌）、MMR 120件、ER/PgR 各118件、CLDN18 26件の染色実績を上げた。本装置の本格稼働により、最適薬選択を支える「高精度な解析」の迅速化を実現し、個別化医療の推進に寄与した。

●内視鏡検査

内視鏡業務を兼任する技師は22名、消化器内視鏡技師は14名となった。

新たに1名が消化器内視鏡技師資格を取得した。

●ブランチラボ（表5）

2025年は12名体制で運営した。新たに認定一般検査技師・二級臨床検査士（血液学）各1名が資格を取得し、専門性の向上と体制強化を図った。検査の自動化に伴い技師の役割は精度管理へ深化しており、検体検査の重要性は一層高まっている。今後も迅速・高精度なデータ提供を継続し、他部署との連携を通じた質の高い診療支援を推進する。

<運用の主な改善成果>

1. 診断精度の向上

【3月】尿中レジオネラ試薬更新。1～15型の広範な検出により肺炎診断を迅速・高精度化。

2. 検査の迅速化と標準化（ルミパルス L2400 活用）

【5月】タクロリムス測定を完全自動化。手技誤差を解消し、検査報告時間の短縮を実現。

【9月】プロカルシトニン検査を集約。検査精度の安定化と、業務の効率化を同時に達成。

3. 事務運用の適正化

【9月】自費検査を現状の診療に合わせて最適化。電子カルテ上の医事会計運用を適正化。

●教育活動

臨地実習：高知学園大学臨床検査学科 3年生4名（2025年10月14日～2026年1月28日）
検査現場でのアルバイトプログラム（2023年より継続）

：高知学園大学臨床検査学科 2年生3名（2月）1年生2名（8月～9月）

臨床検査の理解を深め、次代を担う人材の育成・確保に繋げる。

●2025年のまとめと今後の目標

本年確立した運営の基軸を更に強化し、スペシャリストの専門性とゼネラリストの柔軟性を融合させた組織作りを深化させる。多様化するニーズに即応し、高品質な検査を担保し得る持続可能で変化に強い組織の確立を目指す。

表1 生理検査件数

項目	2024 年	2025 年	伸び率	
12 誘導心電図	34,253	33,619	-1.9%	減
マスター負荷心電図	1,181	996	-15.7%	減
トレッドミル負荷心電図	45	29	-35.6%	減
心肺運動負荷試験(CPX)	214	295	37.9%	増
ホルター心電図	695	801	15.3%	増
長時間心電図	—	443	—	—
イベントレコーダー	211	205	-2.8%	減
脈波	3,605	3,521	-2.3%	減
SPP	166	93	-44.0%	減
経胸壁心エコー	14,012	13,790	-1.6%	減
経食道エコー	480	450	-6.3%	減
下肢動脈エコー	319	285	-10.7%	減
薬剤負荷心エコー	3	0	—	—
運動負荷心エコー	15	18	20.0%	増
肺機能	2,481	2,416	-2.6%	減
特殊肺機能	154	235	52.6%	増
脳波	464	451	-2.8%	減
筋電図	340	405	19.1%	増
簡易PSG	47	74	57.4%	増

表 2 輸血検査件数

項目		2024 年	2025 年	伸び率	
血液型		7,899	7,306	-7.5%	減
不規則性抗体		5,587	5,348	-4.3%	減
交差件数	赤血球液	3,364	3,118	-7.3%	減
	新鮮凍結血漿	774	598	-22.7%	減
	濃厚血小板	459	527	14.8%	増
	自己血	16	18	12.5%	増
使用単位数 (200ml 由来=1 単位)	赤血球液	8,204	7,504	-8.5%	減
	新鮮凍結血漿	2,898	2,780	-4.1%	減
	濃厚血小板	5,390	5,930	10.0%	増
	自己血	28	32	14.3%	増

表 3 細菌検査件数

項目	2024 年	2025 年	伸び率	
一般細菌塗抹	18,033	17,694	-1.9%	減
一般細菌培養	18,609	18,371	-1.3%	減
嫌気培養	611	566	-7.4%	減
真菌培養	1,510	1,300	-13.9%	減
CDT	780	722	-7.4%	減
髄液抗原	8	2	-75.0%	減
抗酸菌塗抹	837	756	-9.7%	減
抗酸菌培養	787	709	-9.9%	減
抗酸菌 TRC	501	525	4.8%	増

表 4 病理検査件数

項目	2024 年	2025 年	伸び率	
組織診断	4,511	4,686	3.9%	増
迅速診断	129	143	10.9%	増
細胞診断	1,291	1,216	-5.8%	減
剖検	12	8	-33.3%	減

表 5 ブランチラボ検査件数

項目	2024 年	2025 年	伸び率	
総患者数	173,578	160,484	-7.5%	減
院内測定	2,500,542	2,520,974	0.8%	増
SRL ラボ測定	61,311	61,026	-0.5%	減

学術発表・講演会等

学術発表（12/18 件）

テーマ	発表者	学会名	開催
Weeksella virosa による菌血症の一例	吉田 さや佳	第 36 回日本臨床微生物学会 総会・学術集会	2025 年 1 月 24 日 ～1 月 26 日
市中発症急性膿胸での Oral-type pleural infection 症例におけ る臨床微生物学的検討	山中 莉子	第 99 回日本感染症学会総 会・学術講演会	2025 年 5 月 8 日 ～5 月 10 日
当院における心血管カテーテル室の臨床 検査技師の役割ータスクシフト/シェア から考える今後の展望ー	酒井 愛莉	第 74 回日本医学検査学会	2025 年 5 月 10 日 ～5 月 11 日
頻拍中の再早期心房興奮部位への通電無 効からマハイム関連回帰性頻拍を診断し た 1 例	坂本 早樹	カテーテルアブレーション 関連大会 2025	2025 年 5 月 29 日 ～5 月 31 日
CMD 検査においてたこつば症候群での IMR/CFR の検討	山本 彩織	第 33 回日本心血管インター ベンション治療学会	2025 年 7 月 17 日 ～7 月 19 日
Mid Term における Intravascular Lithotripsy (IVL) の効果 を考える	酒井 愛莉	CVIT2025 学術集会	
ACS におけるエキシマレーザー冠動脈形 成術 (ELCA) の有用性	小松 千尋		
内視鏡診療における多職種連携医療で病 理検査技師に求められる役割	今本 隼香	第 21 回四国消化器内視鏡技 師学会	2025 年 9 月 21 日
術中脳脊髄モニタリングの専用機導入に おける業務効率化と質の向上	筒井 昌代	第 58 回日臨技中四国支部医 学検査学会	2025 年 11 月 29 日 ～11 月 30 日
当院における血液製剤廃棄削減の取り組 み	森 綾		
抗菌薬適正使用に向けた薬剤感受性率・ 抗菌薬使用量サーベイランスの成果報告	吉田 さや佳		
ROSE を用いた肺癌遺伝子検査における GM 管コンパクトパネルの有用性	島崎 真由	第 64 回日本臨床細胞学会秋 期大会	2025 年 11 月 29 日 ～11 月 30 日

講師（5/8 件）

テーマ	講師	学会・研究会名	開催
シンポジウム タスクシフト・タスクシェアの今を知る	清水 速人	中国四国ライブ in 倉敷 2025	2025 年 2 月 22 日
シンポジウム 心血管カテーテル領域のこと知っていま すか？ー画像検査が患者さんを安全な治 療に導きますー	清水 速人	第 74 回日本医学検査学会	2025 年 5 月 10 日 ～5 月 11 日
タスクシフト/シェア 広がる病理技師 の活躍の場ー内視鏡検体採取ー	今本 隼香		
メディカルスタッフ対象ハンズオンセミ ナー 実際 PCI って何をしているの？	清水 速人	第 31 回日本心血管インター ベンション治療学会 (CVIT) 中国四国地方会	2025 年 9 月 6 日 ～9 月 7 日
メディカルスタッフセッション 今何が起きている？カテ室で起こっ ていること気になりませんか？急変の事前 察知 圧が変化した？何を考える？	清水 速人	CCT2025 Complex Cardiovascular Therapeutics 2025	2025 年 10 月 23 日 ～10 月 24 日

座長・コメンテーターなど（14/25 件）

テーマ	座長・コメンテーター	学会・研究会	開催
乳癌について病理が知っておきたいこと ～臨床・免疫組織化学・遺伝カウンセリング の視点から～	島崎 真由 (座長)	2024 年度高知県臨床検査技 師会・4 県合同研修会	2025 年 1 月 25 日
シンポジウム 〇〇からの合併症	清水 速人 (座長)	WCCM in FUKUOKA 2025 第 35 回西日本コメディカル カテーテルミーティング	2025 年 2 月 15 日
Co-medical Theater 私はイメージングで PCI に参加する！	清水 速人 (座長)	近畿心血管治療ジョイント ライブ(KCJL)2025	2025 年 3 月 14 日 ～3 月 15 日
TPS の基本的な説明、全国の導入状況、当 院の運用について	島崎真由 (座長)	第 35 回高知県臨床細胞学会 総会並びに学術集会	2025 年 3 月 22 日
シンポジウム 心血管カテーテル室で治療に参加しま せんか？今がチャンスです！	清水 速人 (座長)	第 74 回日本医学検査学会	2025 年 5 月 10 日 ～5 月 11 日
3 学会合同シンポジウム メディカルスタッフのカテ室業務の未来 ～タスクシフト・シェアから始まる新た な挑戦～	清水 速人 (座長)	第 33 回日本心血管インター ベンション治療学会 CVIT2025 学術集会	2025 年 7 月 17 日 ～7 月 19 日
メディカルスタッフビデオライブ その時、あなたならどう考える？多職種 での共有	清水 速人 (コメンテーター)	SLDC2025 札幌ライブデモンストレー ションコース	2025 年 9 月 5 日 (WEB)
メディカルスタッフ LIVE DEMONSTRATION#1	清水 速人 (座長)	第 22 回四国お遍路 LIVE	2025 年 10 月 11 日
メディカルスタッフ ビデオライブセッション#2	酒井 愛莉 (コメンテーター)		
メディカルスタッフセッション 今何が起きている？カテ室で起って いること気になりませんか？急変の事前 察知	清水 速人 (座長)	CCT2025 Complex Cardiovascular Therapeutics 2025	2025 年 10 月 23 日 ～10 月 24 日
MASLD におけるIV型コラーゲン 7S の有用 性とルミパルス L2400 によるタクロリム ス測定	近澤 香奈 (座長)	第 58 回日臨技中四国支部医 学検査学会	2025 年 11 月 29 日 ～11 月 30 日
超音波ライブセミナー 次世代につなぐ 血管エコスーパースライブ	池内 梨沙 (座長)		
輸血一般演題	森 綾 (座長)		
微生物一般演題	森本 瞳 (座長)		

非常勤講師

担当科目	講師	機関名	出勤日
臨床放射線・検査	今本 隼香	学校法人龍馬学園 龍馬看護ふくし専門学校	2025 年 10 月 21 日

投稿

投稿内容	投稿者	機関誌	発行日
心血管カテーテル室で治療に参加しま せんか？今がチャンスです！	清水 速人	THE MEDICAL & TEST JOURNAL	2025 年 5 月